

ひまわり

No.323号

白いサボテンの花

お義母さんの代から当院とお付き合いのあるC子さん・F男さんご夫婦の、ちょっと不思議なエピソードを紹介します。C子さんは幼少期に両親を亡くし、兄姉を親代わりに育ったので、どんな時も優しく接してくれるお義母さんは、C子さんにとって特別な存在でした。傍から見ると、実のお母さんと思えるような関係でした。

ご夫婦と当院は、お義母さんの在宅診療を通して関係が深まりました。お義母さんを家で看ると決心したのは、お義父さんを病院で苦しませてしまったという経験があったからでした。途中くじけそうになりながらも、家族で協力し、最期まで家で看病されました。C子さんはお義母さんへの思い入れがとても強く、思い出話を沢山聞かせてくださいました。仕事の付き合いで、どんなに夜遅く帰っても、必ず笑顔で「おかえり!」「お腹空いてないね?」と声をかけてくれ、いつも寝ずに待っていてくれました。一緒に暮らし始めてから、一度も叱られたことがありませんでした。



写真はF男さんが撮影されたものです

C子さんは、お義母さんがもういないことが悲しくて、夕方になると涙を流していました。外に出たり、何か新しいことをしようという気持ちにもなれませんでした。三年ほどたって、悲しみが少し癒えてきた頃、C子さんは何か人の役に立つことがしたいと思うようになりました。ある時、当院から郵送されてきた『在宅ホスピスボランティア養成講座』のチラシに興味を持ち、思い切って受講しました。子どもの頃から勉強が大嫌いだったC子さんですが、無事に講座を修了することが出来ました。それからは、ボランティア活動に生きがいを見出し、充実した時間を過ごしました。楽しんでボランティア活動に取り組んでいる中、前から気になっていた体の不調を当院の医師に相談し、病院で検査をしたところ、ガンが見つかりました。その後は治療のため何度か入退院を繰り返しましたが、ボランティア活動は出来る限り続けました。

ガンが悪化してきて、食事も入らなくなってきた頃から、C子さんは「家に帰りたい」と言うようになりました。F男さんは、自分一人では連れて帰れないと思って諦めていましたが、当院のソーシャルワーカーやホスピス病棟の看護師の助けを借りて、C子さんの願いを叶えることが出来ました。自宅で過ごした数時間、C子さんはF男さんの手をしっかりと握り、満面の笑みで過ごしました。

【続きは次のページへ】

C子さんが亡くなって半年たった頃でした。F男さんから、C子さんが亡くなった翌日に体験した話を聞きました。50年前にお義父さんが家に持って帰ってきてから一度も咲かなかったサボテンが、初めて咲いたそうです。この時F男さんは、驚きと同時にC子さんを身近に感じました。当院で開催している遺族会の参加者からも、似たような素敵な話を聞いたことがあります。ちょうど桜が満開の頃、いつも夫と歩いていた散歩道で、急に風が吹いて桜の花が舞い散った瞬間、亡くなった夫の存在をふと感じ、感謝の気持ちで嬉しくなったそうです。



このようなことは主観的な体験と言えますが、それが事実かどうかを考えるよりも、安心した、嬉しかった、心が温まったというように、『自分がどう感じたのか』ということが大切だと思います。私も父親を亡くした後、寝る前になると線香の香りを感じることが数日続きました。この時、もしかしたら父親が傍にいたのかなと感じました。もし今後、同じようなことがあったら、心の中で「ありがとう」と伝えたいと思います。（事務長 岡村 和久）

※体験談の掲載を快く許可してくださった、ご遺族のお二人に心より感謝申し上げます。

研修医たちの学びの場

地域医療研修

在宅ホスピスを通して学んだこと

当院では、2014年より近隣の病院から研修医の受け入れを継続的に行なっています。

研修医が勤務する臨床研修病院が実施している必修プログラム（地域医療研修）の一環として、毎月1～2名の研修医が来院し、ひと月という短い期間ではありますが、一緒に訪問診療を行ないながら、在宅医療の現場を体験します。

1ヶ月間をともにクリニックで過ごした研修医が最終週に行なう院内発表では、症例を通して学んだことや在宅医療・在宅ホスピスに関わってみて感じたこと、考えたことなどを話してくれます。

フレッシュな研修医たちの感性や視点は、私たちクリニックのスタッフにとっても良い刺激になっており、多くの学びを得ることができています。

～ 研修医の発表や提出レポートの中から ～

- ・多くのスタッフ・職種が「ONE TEAM」となり、在宅での診療を支えていることが、よく伝わってきました。
- ・ご自宅に訪問して、患者さんやご家族から病院では聞くことができない本音や気持ちを直接伺うことができ、良い経験になりました。
- ・在宅でできる医療処置はごく一部に限られていると思っていましたが、実際の現場では、様々な処置ができていることを知ることができました。
- ・在宅医療という選択肢を、患者さんに自信を持って提案できるように、これから知識を付けていこうと思うようになりました。
- ・人生の重要な場面に関わるからこそ、患者さんやご家族との深い関係を築くことができ、世代を超えて関わりを持つことができることが分かりました。

当院理事長の二ノ坂保喜が、福岡県からの依頼で「在宅医療リーフレット」と「人生会議チラシ」の掲載内容を検討するメンバーとして参加し、今年3月に発行されましたので、本誌でご紹介します。

スマートフォンやタブレット等のカメラで、二次元バーコードを読み取ると、WEB上でご覧いただくことができますので、是非アクセスしてみてください。

また、当院でも配布してますので、ご入用の方は、お気軽にお声掛けください。



①「在宅医療リーフレット」

住み慣れたまちで自分らしく過ごしたいと望む方への一つの選択肢「在宅医療」について、これまで全くご存知なかった方や、将来的に在宅医療を検討したいとお考えの方へも分かりやすいリーフレットです。

在宅医療のQ&Aでは、「入院より費用がかかりますか?」「ひとりでも最期まで自宅で過ごせますか?」といった不安や心配事へお答えし、別の誌面では実際に在宅医療を受けられたご本人やご家族からの声なども紹介しています。



②「人生会議チラシ」

人生会議は、高齢に伴う体力の低下や急な病気等が要因となって意思決定ができない状態になってしまう前に、あらかじめ「自身が希望する医療や受けたいケア」や「譲れないことや気がかりなこと」等を家族や友人、医療介護スタッフなどと話し合うことをいいます。

あらためて人生会議を行う場を設定しなくても、なにげない会話やつぶやきの中から、ご本人の大事にしていることが見えてくることもあります。チラシをヒントに想いを伝え合ってみましょう。



Event 催し物・イベントのご案内



クリニックからのお願い



新型コロナウイルス感染症対策
～発熱時の受診について～

発熱もしくは風邪症状のある方は
お車の中で待機していただくか
こちらが指定した時間に
受診していただくことで
発熱や風邪症状のある方との接触を
できる限り避けるようにしています



発熱または風邪症状のある方は
まずはお電話にてご相談ください
受診できる時間や受診する方法について
ご案内いたします

にのさかクリニック
☎ 092-872-1136

症状や経過によっては、
他の医療機関へ受診をお願いする場合があります



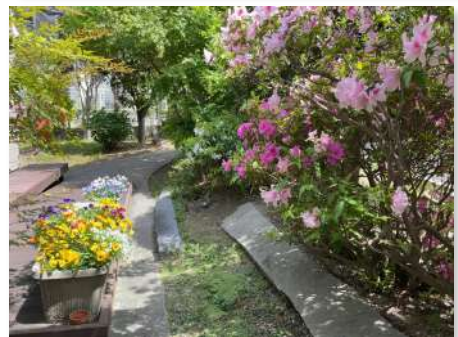
定期的受診、その他の症状で受診される方は
できるだけ12時までの受診をおすすめします

皆様のご理解とご協力をお願いいたします

写真を撮ってみました



小さなたねから見える庭園の
春の景色



パンジーやツツジ、ハナミズキなどが見頃です

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
9:00	午前	外来診療		訪問診療	外来診療		
13:00		昼休み	健康教室		昼休み		休診
14:00	午後	訪問診療			訪問診療		
17~18:00		※外来診療			※外来診療		

※ 午後5：00～6：00の外来診療は、訪問診療の都合により診療開始時間が遅れる場合や診療ができない場合がございます。診察をご希望の方は、事前にお電話いただくと幸いです。